

臍の緒の小話

著者	中澤 紀代子
雑誌名	新潟日報 上越かわらばん
巻	617
ページ	2-2
発行年	2013-04-07
URL	http://hdl.handle.net/10631/1063

東日本大震災から2年が経過し復興に励む中で、あらためて人と人の絆が見直され、注目され

す。今はこのような紛失を防ぐために、産院側があらじめ分娩時に胎盤側

に臍の緒を母親に渡す習慣は産院により異なっており、最近では出産後子が九死の状態になった

す。今はこのように紛失を防ぐために、産院側があらじめ分娩時に胎盤側

わが国では臍の緒を出の下に埋めると家が栄える「女の子ならお嫁に

らかじめ分娩時に胎盤側風習があります。その歴史行くときに持たせると、

子宝に恵まれる「、また箱に入れて家の筆筒のど

県立看護大学 臨床看護学領域 母性看護学助教 中沢 紀代子

中沢 紀代子

多くの人は桐でできた小箱に入れて家の筆筒のど

臍の緒の小話

ています。絆にはさまざまなありますが、臍の緒といえは母親と赤ちゃんをつなぐ大切な絆の一つです。

の臍帯を3センチほど切つて保管用にとつておき、出れ、日本特有の伝統として亡くなったときにひつぎ

ようか。

一般的に、赤ちゃんの臍の緒は生後7〜10日くらいでポロっと取れます。注意していないと気づかないうちに取れて、

保管されている人は、この機会に家のどこか奥の方にしまつてある臍の

紙おむつについたまま捨ててしまふ恐れがあります。

の産院もあります。この活用法としては「その

緒を取り出し、母と子のつながりを再確認してみ

お渡ししないという方針

ました。このように、臍の緒を

ように、最近では出産後子が九死の状態になった

てはいかがでしょうか。